



令和7年度
事業報告書

福岡県共助社会づくり

基金ニュース

つながる・ひろがる

共助の輪



コラボステーション福岡





福岡県共助社会づくり基金について	2
寄附金の種類・手続き／寄附のメリット	3
基金を活用した助成事業(ふくおか地域貢献活動サポート事業)	4
寄附者のご紹介	5~8

令和7年度ふくおか地域貢献活動サポート事業

[自由提案型]

1. 不登校・ひきこもりの人及びその家族の「ほっとスペース」事業	10
2. 多世代交流ポッチャ大会・むかしあそびフェスタ事業	11
3. 子育て中低所得層ひとり親世帯支援及び地域社会貢献事業	12
4. 田川市民プールバリアフリーデイ	13
5. LGBTQ+当事者と家族、支援者のための居場所&悩み事相談事業	14
6. 認知症早期発見・改善を実現するための包括的な連携モデル事業	15
7. すべての子どもに多様な学び・体験の機会を!「子ども国際マーケット」	16
8. 能古島の鹿垣再生を通じた山林の管理・活用計画の策定	17
9. 私達からのギフト ~美しい川を子どもたちへ~	18
10. 地域猫活動	19
11. EMIARE Project 青少年交流&環境保全活動	20
12. 洞海湾の近代化遺産が創る景観の活用と継承	21

[テーマ型-災害支援枠]

1. 福岡県60市町村協働による発災時の情報調査体制づくり	23
2. 避難をあきらめない自助・共助・近助活性化事業	24

[テーマ型-困難な状況にあるこどもの支援枠]

1. えほん楽団 みんなのこどもコンサート	25
2. こどもたちが一歩をふみだす交流体験事業	26
3. 農福連携お芋プロジェクト	27
4. 非行や問題行動を起こす子ども達へ寄り添い支援	28
5. 居場所つくる	29
6. こども食堂運営事業と子供たちに第4の居場所を確保する事業	30
7. 子どもたちの多様な学びを支える居場所情報発信事業	31

[テーマ型-健康増進枠]

1. 医療とアートの協働で演劇ワークショップを開発・実施する事業	32
2. SeasideRunによる人と海の健康増進プロジェクト	33
3. FUKUOKAコンファレンス 2025	34



福岡県共助社会づくり基金について

福岡県では、NPOや企業、行政などの多様な主体が地域の課題を解決するため、互いに支え合い、共に助け合う「共助社会」の実現を目指しています。

福岡県共助社会づくり基金は、この趣旨にご賛同いただいた県民や企業の皆さんの思いを「寄附」というかたちでお預かりし、「多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動」へとつなぐ基金です。

特徴 01

寄附者の**思い**を受けとめます

「広く地域課題の解決を図る取組を応援したい」という県民や企業の皆さんから「寄附」をお受けします。寄附者が、応援したい活動分野やテーマを指定して寄附することもできます。

特徴 02

課題解決に取り組む**団体**へとつなぎます

お預かりした寄附は、多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へ助成を行う「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。多様な主体が協働して取り組む事業の企画案を募集し、審査を経て助成対象となる協働事業を決定します。

特徴 03

事業の**成果**をお知らせします

実施された協働事業の成果は、成果発表会の開催や報告書「福岡県共助社会づくり基金ニュース」の発行などを通じて、広く県民の皆さんにお知らせします。

特徴 04

寄附者は**税制上の優遇措置**が受けられます

福岡県共助社会づくり基金へのご寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。詳しくは3ページをご覧ください。

特徴 05

寄附された方のお名前を**公表**します

寄附者のお名前(企業名)を広く県民の皆さんに公表します。詳しくは3ページをご覧ください。

基金のしくみ



多様な主体
が協働して
取り組む社
会貢献活動



寄附金の種類・手続き／寄附のメリット

普通寄附金 共助社会づくりの活動を広く応援したい場合

テーマ型寄附金* 特定のテーマを応援したい
※個別のテーマ指定ができるのは50万円から

テーマ例:過去に実施したテーマはこちら

環境保全活動、地震・豪雨災害の被災地支援、困難な状況にあるこどもの支援、
 県民の健康増進活動

テーマの
 内容については
 ご相談ください。

1.ご相談



まずはコラボステーション福岡
 にご相談ください。

2.お申し込み



寄附金申込書をお送りします。ご
 記入後、郵便・ファックス・電子
 メールのいずれかでお申し込み
 ください。

3.払い込み



振込手数料はかかりません

福岡県から納付書を送付いたし
 ますので、お近くの金融機関で
 お振込みください。

寄附をすることで、2つのメリットがあります。

■税制上の優遇措置を受けることができます

企業の場合 資本金の額にかかわらず、寄附金の全額を損金算入することができます。

個人の場合

所得税

[寄附金額の合計額-2,000円]×所得税の税率

※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の40%が上限です。

個人住民税

①基本控除

[寄附金額-2,000円]×10%

※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の30%が上限です。

②特例控除

1.[寄附金額-2,000円]×[100%-10%(基本分)-所得税の税率]

※この特例分が住民税所得割額の2割を超えない場合

2.(住民税所得割額)×20%

※この特例分が住民税所得割額の2割を超える場合

相続税

相続または遺贈により取得した財産を申告期限内に一定の要件を満たし
 寄附した場合、その寄附をした財産は、相続税の課税価格の計算に算入さ
 れません。



ご確認ください

●税制上の優遇措置を受けるには、所得税の確定申告が必要です。

●具体的な控除の額は、各担当部署へお問い合わせください。

・所得税について・・・最寄の税務署

・個人住民税について・・・お住まいの市区町村税務課

■お名前を公表させていただきます

ご寄附いただいた方のお名前を「福岡県共助社会づくり基金ニュース」や

「コラボステーション福岡ホームページ」に掲載させていただきます。(匿名とすることも可能です)



基金を活用した助成事業（ふくおか地域貢献活動サポート事業）

「福岡県共助社会づくり基金」を活用して、NPO、行政、地域コミュニティ、企業などの多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動を応援する助成事業です。

県が協働事業の企画案を募集し、外部有識者による審査を経て、補助金の交付対象となる事業を決定します。

自由提案型

普通寄附金 を活用し、活動分野を限定しない自由で先進的な発想や専門的なノウハウ等を活かした公益性の高い協働事業

令和7年度：12件 詳細は10ページから21ページ

テーマ型

テーマ型寄附金 を活用した、寄附者の意向による一定のテーマに基づく協働事業

令和7年度：テーマ「災害支援」2件

詳細は23ページから24ページ

テーマ「困難な状況にあるこどもの支援」7件

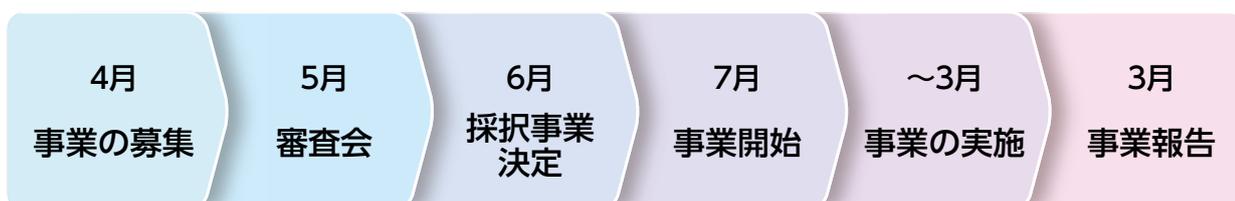
詳細は25ページから31ページ

テーマ「健康増進」3件

詳細は32ページから34ページ

事業スケジュール

※年度によって変わることがあります



コラボステーション福岡ホームページのご紹介

コラボステーション福岡ホームページでは、今までにご寄附をいただいた寄附者の皆様や、寄附金の活用実績などを掲載しています。共助社会づくり基金への寄附を検討されている方、協働事業を応援したい方は、ぜひご覧ください。

<https://www.csf.pref.fukuoka.lg.jp>



ぜひ
ご覧ください



イオン九州株式会社

【企業紹介】

イオン株式会社は2010年から、「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念の実践のため、全国各地の地域行政と協働し、防災・福祉・環境保全の推進や180券種を超える「ご当地WAON」などを活用した商業・観光の振興など、さまざまな分野で双方が持つ資源を有効に活用するための協定を締結し、活動を展開しています。

イオン株式会社と福岡県は、2012年4月に包括提携協定を締結し、福岡県の活性化と県民サービスの向上に協働で取り組んでいます。その取組のひとつが「ふくおか共創WAONカード」です。これは、全国のイオンのお店や加盟店で使える電子マネーカードで、利用額の0.1%を「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPOや企業、行政などの多様な主体の協働による「共助社会づくり」に役立ててもらうものです。この仕組みを御理解いただいた上で、「ふくおか共創WAON」の利用者が増え、寄附の好循環が生まれるように、今後とも地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続けることを目指していきます。



2025年8月 イオン九州株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から イオン九州株式会社 中川伊正代表取締役社長、服部誠太郎福岡県知事、イオン九州株式会社 内田昌代 上席執行役員福岡事業部部长

寄附者のご紹介

イオン九州株式会社経営管理本部エリア政策グループの倉富尚也さんにお話を伺いました。

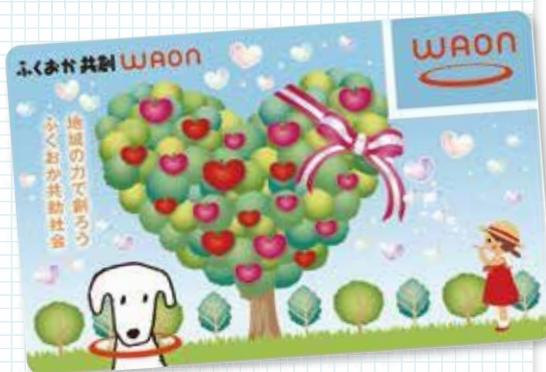
Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

NPOや企業、学校、行政などの皆さまが、居場所づくりや地域資源の活用など様々な事業に取り組まれ、いずれの事業も「共助社会づくり」につながる素晴らしい取組だと感じています。

イオングループでは、「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念のもと、地域に密着した活動を続けており、「ご当地WAON」もその一環として取り組ませていただいております。

また、イオン九州株式会社は2022年に設立50周年、2024年にイオン九州の前身となる福岡大丸創業70周年となり、2026年、新たな年を迎え、更なる地域活動に貢献できるように取り組んでまいります。

倉富尚也



福岡県のご当地WAON
「ふくおか共創WAONカード」



九州朝日放送株式会社

【企業紹介】

九州朝日放送株式会社では、ふるさとの自然環境について、自分たちが暮らす足元から考えていこうと、1997年から「KBC水と緑のキャンペーン」をスタートさせました。KBCのテレビ、ラジオ、イベントなどを通じて環境保護の大切さを訴えるとともに、「KBC水と緑の基金」を募り、視聴者や聴取者の皆様からお預かりした浄財を名木治療や被災地支援に活用してきました。

第17回から第28回までは、「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPO・ボランティア団体、企業、行政など多様な主体の協働による環境保護活動や被災地の復興支援などに役立てていただきました。

なお、第29回(令和7年)の同キャンペーンからは、新たにふるさとの桜を「未来に残したいタカラモノ」と位置づけ、桜の保全活動に取り組んでおります。



2025年4月 九州朝日放送株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から 九州朝日放送株式会社 森君夫代表取締役社長、服部誠太郎福岡県知事

寄附者のご紹介

九州朝日放送株式会社総合編成局次長の比良進吾さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

災害発生時の情報調査体制づくりや、視覚障がい者向けの防災ハンドブック作成にご活用いただいております。視聴者・聴取者の皆様からお預かりした寄附金を有効に活用いただいていることを大変嬉しく思います。多発する自然災害には平時からの備えが重要ですので、今回の支援が地域の防災力向上の一助となることを願っております。

比良さん



第29回KBC水と緑のキャンペーン



大坪G S I 株式会社

【企業紹介】

大坪G S I 株式会社は、柳川市に本社を構え、「世の為」「人の為」「地域の為」にどのような貢献ができるか希求し、産業廃棄物処理・リサイクル事業、採石・砕石事業、運送業、建設業、解体業を営んでいます。

県内にある企業として、県の地域課題解決に協力したいと考えており、「福岡県共助社会づくり基金」の理念に共感し、2021年から寄附を行っています。



2025年6月 大坪GSI株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から 板橋聡福岡県議会議員、大坪GSI株式会社 大坪尚宏代表取締役、服部誠太郎福岡県知事

大坪GSI株式会社代表取締役の大坪尚宏さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

大坪さん

将来を担う子どもたちのために少しでも力になればと思い、「テーマ型:困難な状況にある子どもの支援枠」に活用いただいています。それぞれの団体が子どもたちに寄り添った活動をされており、嬉しく思います。

大坪GSI株式会社としても、皆様に寄り添い、皆様の困りごとを解決すべく、事業を続けてまいりたいと思っております。

明治安田生命保険相互会社

【企業紹介】

明治安田生命保険相互会社と福岡県は2022年2月に包括提携協定を締結し、健康づくりやワンヘルスの推進、スポーツの振興など様々な分野で相互に連携を図り、双方の保有する資源を有効に活用した協働の取組を行っています。

その取組の一環として、2022年から「福岡県共助社会づくり基金」に対して寄附を行い、福岡県民の健康づくりに役立てていただいています。この寄附金は、大切な「地元」に想いを届けるため、従業員が、ゆかりのある地域を選んで行う募金に会社が上乗せして寄附を行う「私の地元応援募金」の取組によるものです。



2025年12月 明治安田生命保険相互会社からの寄附金贈呈式

写真左から 明治安田生命保険相互会社 今井淳之福岡支社市場統括部長、明治安田生命保険相互会社 一瀬隆仁福岡支社支社長、服部誠太郎福岡県知事、明治安田生命保険相互会社 本村剛執行役員九州・沖縄地域リレーション本部長

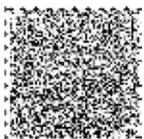
明治安田生命保険相互会社福岡支社市場統括部の賀来祐輔さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

賀来さん

「テーマ型:健康増進枠」において、医療をテーマとした演劇ワークショップやワンヘルスのイベント等にご活用いただいております。非常に意義のあることだと思っております。

明治安田生命保険相互会社としても、福岡県がいつまでも、活気溢れる事を願い、今後も一層支援を継続してまいります。



株式会社セブン・イレブン・ジャパン

【企業紹介】

株式会社セブン・イレブン・ジャパンと福岡県は、2013年11月に包括提携協定を締結し、地域の活性化と県民サービスの向上に協働で取り組んでいます。

その取組の一環として、2024年7月に、九州に馴染みのある商品を期間限定で販売する「九州うまいもんフェア」を九州7県のセブン・イレブン店舗で実施し、売上の一部を、「福岡県共助社会づくり基金」へ寄附しました。

今後も、株式会社セブン・イレブン・ジャパンは「明日の笑顔を共に創る」という企業理念のもと、地域と共に生きる社会を実現していきます。



2024年10月 株式会社セブン・イレブン・ジャパンからの寄附金贈呈式

写真左から 株式会社セブン・イレブン・ジャパン 柴田博貴オペレーション本部北九州ゾーン福岡中央地区ディストリクトマネジャー、株式会社セブン・イレブン・ジャパン 品川虎鉄オペレーション本部北九州ゾーン太宰府地区ディストリクトマネジャー、株式会社セブン・イレブン・ジャパン 有吉敏宣オペレーション本部北九州ゾーンゾーンマネジャー、服部誠太郎福岡県知事、平田浩セブン・イレブン福岡浄水通り店オーナー、平田啓子セブン・イレブン福岡浄水通り店オーナー

株式会社セブン・イレブン・ジャパン オペレーションサポート部 地域共生北九州ゾーンの関本彰司さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

関本さん

「福岡県のために微力ながらも役に立ちたい」という思いから、自由提案型に活用いただいています。様々な団体が連携した地域貢献活動が展開されており、このような取組を通じて、地域のさらなる発展を願っております。株式会社セブン・イレブン・ジャパンとしましても、引き続き福岡県と様々な連携を継続するとともに、これからの10年・20年と地域の皆さまのニーズに応え、「明日の笑顔を共に創り」、愛される店づくりに邁進してまいります。

ご寄附いただいた皆様

イオン九州株式会社 (令和7年4月・9月)	5,120,135円	自由提案型 こどもの支援枠
株式会社ダイエー (令和7年4月)	266,689円	自由提案型
株式会社セブン・イレブン・ジャパン (令和6年10月)	1,242,258円	自由提案型
九州朝日放送株式会社 (令和7年3月)	2,234,738円	災害支援枠
大坪GS I株式会社 (令和7年4月)	1,000,000円	こどもの支援枠
明治安田生命保険相互会社 (令和6年10月)	1,470,200円	健康増進枠

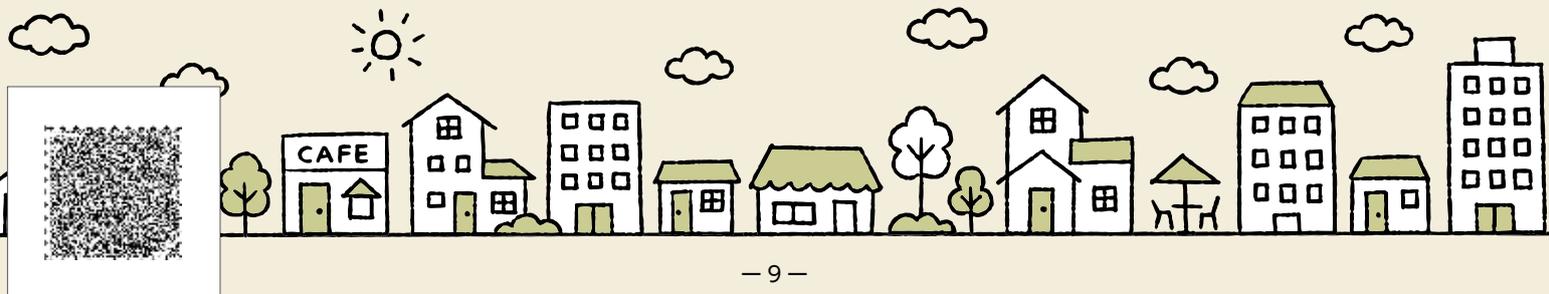
ご支援いただき
ありがとうございました。
ございました。

※括弧内は寄附金納付年・月



自由 提案型

寄附者 イオン九州株式会社
株式会社ダイエー
株式会社セブン-イレブン・ジャパン



不登校・ひきこもりの人及び その家族の「ほっとスペース」事業

協議体 大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議

所在地: 大牟田市瓦町9-3 総合福祉センター内

〈構成団体と役割〉

- ◆ 社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会 企画運営、広報
- ◆ 特定非営利活動法人大牟田市障害者協議会 企画運営、職場体験・就労体験先の紹介
- ◆ 筑後若者サポートステーション 企画運営、職場体験・就労体験先の紹介
- ◆ 大牟田市保健福祉部福祉支援室福祉課 企画運営
- ◆ 大牟田市子ども未来室子ども家庭課 企画運営
- ◆ 大牟田市教育委員会 企画運営、小中学校への情報提供
- ◆ 不登校・ひきこもり家族の会「ふきのとう」 企画運営、活動場所の管理運営
- ◆ 子ども家庭支援センターあまぎやま 企画運営、専門職の派遣
- ◆ 一般社団法人OMUTA BRIDGE 企画運営
- ◆ 大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会 企画運営、活動場所の提供
- ◆ 大牟田市民生委員児童委員協議会 企画運営、啓発活動
- ◆ 「80・50問題」学習会実行委員会 企画運営

〈問い合わせ先〉

◆ 社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会

住所 大牟田市瓦町9-3
TEL 0944-32-8851 FAX 0944-85-8382
メール soudan@omshakyo.or.jp



ふきのとうクリスマス会

課題・背景・目的

不登校・ひきこもりは誰にでも起こりうることである。しかし、当事者とその家族は、家庭内の閉塞感、将来への不安、他者からの偏見など、多くの苦しみを抱えている。また、不登校・ひきこもりに対する理解者が身近にいないため、当事者は行き場を失い、社会復帰への一歩を踏み出せないでいる。そのため、理解者を増やし、当事者が安心して過ごせる居場所を作ることが必要とされている。

工夫した点

昨年度の修了者向けにフォローアップ講座を年2回開催し、継続的な学習機会を提供することで、サポーターの質の維持・向上を図った。1回目では不登校を経験した当事者とその家族の話の聴き、サポーターとして出来る事を考察。2回目は、不登校・ひきこもり家族支援セミナーと合わせて開催した。

また、第10回進路相談会～全日制じゃない高校ってどんなところ?～では、会場に入れない不登校生徒のため、ZOOM配信を行い、情報の提供に努めた。

主な経費 スタッフ人件費、講師謝金、通信運搬費、水道光熱費

主な取組内容

大牟田市において、不登校・ひきこもりの当事者と家族が安心して過ごせる居場所として「ほっとスペースふきのとう」を週3日開設している。また、不登校・ひきこもりへの理解を深めることなどを目的としたサポーター養成講座を開催し、昨年度の修了者にはフォローアップ講座も実施した。さらに、高校進学に不安を抱いている中学生と保護者を対象に、県内13校の学校紹介や個別相談を行う進路相談会も開催した。

事業の成果・今後の展開

「ほっとスペースふきのとう」は、毎月約50名の当事者やその家族に利用されている。不登校・ひきこもり支援サポーター養成講座は全3回の講座で開催され、最終的に27名が修了した。当事者の家族や民生委員が主な参加層であったが、今回は元ひきこもりの大学生が参加するなど、参加者の層が広がった。

また、進路相談会では、66名の生徒とその保護者が来場、8名がZOOMで参加し、自分に合った高校を見つける機会となった。

今後も、不登校・ひきこもりへの理解促進と、より良い居場所づくりのため、これらの取組を継続していく。



不登校・ひきこもりサポーター養成講座修了式



第10回進路相談会



多世代交流ポッチャ大会・ むかしあそびフェスタ事業

協議体 **北九州ポッチャwith
むかしあそびフェスタ実行委員会**

所在地:北九州市小倉北区金田2-1-32 アヴィニール金田II-E
(構成団体と役割)

- ◆特定非営利活動法人BeWith
企画・運営、広報
- ◆株式会社LUCIAZ
リハビリ特化型デイサービスHIVE
シニアボランティア総括、ポッチャ大会運営

(問い合わせ先)

- ◆特定非営利活動法人BeWith
HP・SNS等 <https://bewith.or.jp>



多世代が参加したポッチャ大会

課題・背景・目的

北九州市は政令指定都市で最も高齢化が進み、高齢者の社会的孤立・孤独が深刻化している。また、核家族化やコロナ禍の影響により、20代～30代の若年層でも孤独を感じる人が増加している。高齢者・若年層の孤独・孤立の解消のため、世代間交流等による社会参加の機会の拡大が求められている。

工夫した点

大会前後に交流会を開催し、ポッチャの体験会や脳の健康チェック、若者とシニアの相談タイムを設け、世代間交流を促進した。また、市内の高等学校と連携して会場を確保し、子どもたちが楽しめるよう高校生が企画するゲームコーナーも提供。市内飲食店の出店・作業所による手作り品販売や、ウクレレ体験教室などを企画。多様な層への参加を促すため、介護施設等への働きかけやけん玉クラブ等への呼びかけに加え、市内小学校へチラシ配布も実施した。

主な取組内容

世代や障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめるポッチャ大会とむかしあそびフェスタを同時開催した。初級パラスポーツ指導員による本格的なポッチャ大会に加え、学生とシニアが協力し、こどもたちに昔遊び(お手玉、あやとり、折り紙、けん玉、ベーゴマなど)や工作を体験させるブースも設置。けん玉クラブの小学生や有段者によるステージショーやテクニック講座も実施した。

事業の成果・今後の展開

イベント全体を通して、地域の小学生、親子、高齢者など110名が参加。ポッチャ大会には3人1チームでパラスポーツクラブや老人クラブ等から8チームが出場した。また、市内のシニア・高校生・大学生など約50名がボランティアとして運営に協力。参加者に、普段接することの少ない多様な層と交流し、地域社会において世代を超えてつながりを育む場を提供することができた。今後も、共助社会の実現に向けて、北九州市内の各区で同様のイベントを継続開催していく。

主な経費 人件費、講師謝金、旅費、施設使用料、チラシデザイン費など



運営を支えたボランティアスタッフ



交流会での脳の健康チェック



子育て中低所得層ひとり親世帯支援 及び地域社会貢献事業

協議体

JS元気会

所在地：福岡市南区塩原3丁目

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人元気シニアの仲間たち
企画・運営、食料配布
- ◆ 未来創造JS会
花壇整備、清掃活動

〈問い合わせ先〉

◆ 特定非営利活動法人元気シニアの仲間たち

住所 福岡市南区大橋2丁目18番12号

TEL 090-9498-8463

メール genkishinia2026@sco.bbiq.jp

HP・SNS等 <http://sites.google.com/view/genkishinia>



食材の小分け作業の現場

課題・背景・目的

昨今の物価高に伴い、低所得のひとり親世帯においては食費の負担感が増しており、大橋地区でも同様の状況が見られる。食費の負担の大きい子育て中の世帯では、十分な栄養確保が困難となったり、孤食といった問題も引き起こしている。

また、大橋駅西口周辺では、花壇の手入れ不足やゴミの散乱により地域の景観が悪化し、住民の生活環境や防犯上の不安を高めている。

工夫した点

フードパントリー活動では、こどもの人数や年齢構成を詳細に把握し、各世帯のニーズに応じた配分量を細かく調整した。寄せられた生活相談には助言を行い、内容に応じた区の子育て支援課や市社会福祉協議会等の専門機関へ適切に繋いだ。こうしたきめ細やかな対応により、利用者は安心して支援を受けることができた。

主な取組内容

低所得のひとり親世帯を対象とした、毎月無料のフードパントリー活動を大橋地区で実施し、フードバンクやグリーンコープ等から寄贈された食材を配布した。また、活動周知のため社会福祉協議会や区役所、シングルマザーの支援団体等の各所にチラシを設置し、潜在的な支援対象世帯への情報提供を図った。さらに、地域貢献活動として大橋駅西口では、毎月花壇整備と清掃活動を実施した。

事業の成果・今後の展開

フードパントリーを月2回から隔週開催の計4回に増やし、40世帯に対して食糧支援を実施した。その過程において、障がいのあるこどもを抱える世帯など、特に支援を必要とする世帯を的確に把握し、支援体制を確立した。また、花壇整備では、近隣の幼・保育園との共催による花壇の植栽などを通じ、多世代交流と地域コミュニティの活性化も図った。

今後は、寄付金や企業からの協賛金等の自主財源を確保し、事業運営の安定化を図る。

主な経費

人件費、食材保管場所使用料、消耗品・材料購入費



配布食材



手入れ直後の花壇



田川市民プールバリアフリーデー

協議体 田川市民プールバリアフリーデー実行委員会

所在地: 田川郡糸田町2241番地9
(構成団体と役割)

- ◆ 特定非営利活動法人田川バリアフリープロジェクト
企画・運営
- ◆ 田川地区障がい者自立支援協議会
企画・運営
- ◆ 日本美装・エスダブルエイチ共同事業体
田川市民プール管理運営

〈問い合わせ先〉

◆ 特定非営利活動法人田川バリアフリープロジェクト

住所 田川郡糸田町2241番地9
TEL 0947-22-3221 FAX 0947-22-3227
メール job.tsukimori@houtokukai.com
HP・SNS等 <https://youtu.be/egMEugOfeKM?si=aQ0AodxlbWfkQfqG>



田川市民プールバリアフリーデーの様子

課題・背景・目的

障がいのある方がプールを利用するには、混雑時の介助や移動、更衣など、様々な課題がある。田川市民プールは、流水プールやロデオマウンテンを備え、田川地域の夏の人気施設である。しかし、週末の混雑が特に著しいため、当事者や関係者からは、プールの利用が難しいとの声が多く寄せられていた。

工夫した点

田川地域の障がい福祉事業所のスタッフが中心となり、障がい特性への理解や介助技術を持つ人材を通常の約10倍配置することで、安全確保と介助者の負担軽減を図った。広報活動では、近隣の特別支援学校へ直接イベントを案内し、生徒や保護者へ確実に情報を届けた。併せて、障がい福祉事業所へのチラシ配布やSNS (Instagram) による発信も実施した。

主な取組内容

田川市民プールを障がいのある方(児童・生徒およびその保護者・関係者を含む)に限定し、参加費100円で1日開放した。また、ボランティアスタッフ183名がプール監視や飲食の販売業務で運営を支え、きめ細やかなサポート体制を構築することで、参加者が安心してプールを利用できる環境を提供した。

事業の成果・今後の展開

晴天の下、県内外から1,401名が参加。参加者アンケートでは、「毎年利用させてもらっています。重度知的障がいのこども2名がいる我が家にとって、この日はお正月やお盆より大切な1日です。ボランティアさん、主催者の方々に心から感謝しています。」といった声が寄せられ、満足度100%という結果にもつながった。障がいのある方もスタッフや他の参加者と交流し、社会参加を促進する貴重な機会となった。今後は、クラウドファンディングなども活用しながら、活動を安定して継続していくことを目指す。

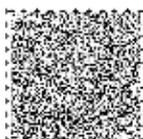
主な経費 プール管理委託費、保険料、消耗品・材料購入費



車いす参加の方



183名のボランティアスタッフ



LGBTQ+当事者と家族、 支援者のための居場所&悩み事相談事業

協議体 和みカフェ～Rainbow Harbor～

所在地：大野城市栄町（R7.11月に福岡市東区へ移転）
〈構成団体と役割〉

- ◆GID Link
企画・運営、広報、相談対応、調査
- ◆FHV ～Free Happy Vividly～
広報、研修、調査

〈問い合わせ先〉

- ◆GID Link
住所 大野城市栄町（R7.11月に福岡市東区へ移転）
メール theta.nobu@gmail.com
HP・SNS等 <https://harbor.my.canva.site/dagdudof2fi>



和みカフェの様子

課題・背景・目的

LGBTQ+の当事者の多くは、家族にも相談しにくい悩みを抱え、孤独感から引きこもりや不登校に至るケースも多い。また、当事者の高齢化も進んでいる。都市部には交流事業や拠点が多く存在するが、アクセス困難な地域では孤立化が進む傾向にある。そのため、年齢を問わず、当事者やその家族が身近な場所で安心して相談できる居場所が求められている。

工夫した点

当事者の関心や課題に応じ、ウォーキング講座、自己肯定感アップセミナー、曼荼羅アートワークショップ、防災ワークショップなど多彩な講座を開催した。また、クリスマス会をはじめとする交流イベントも実施した。これらはテーマを明確にした少人数制とし、共通の思いや目的を持つ参加者同士が安心して語り合える場づくりを行った。さらに、過去の写真や参加者の声を事前に共有することで、初参加の方も不安なく参加できるよう工夫を重ねた。

主な経費 人件費、講師謝金、会場使用料、チラシ作成費



和みカフェ 災害ワークショップ



和みカフェ 自己肯定感アップワークショップ

主な取組内容

LGBTQ+の当事者や家族、支援者を対象とした交流の場「和みカフェRainbow Harbor」を大野城まどかぴあで月1回開催した。ここでは、無料相談に対応するとともに、孤立感解消のための交流イベントを実施し、当事者同士の交流を深めた。福岡県内の高校における制服、トイレ、更衣室などの配慮状況についてアンケート調査を行うにあたり、意見交換会を実施した。

事業の成果・今後の展開

和みカフェを計9回開催し、当事者やその家族が交流を深めた。LINE無料相談窓口には、家族との関係性に悩む当事者を中心に相談が寄せられ、継続的な対応を行った。また、高校へのアンケート調査に関しては、県教育委員会や教育事務所の関係者も匿名で意見交換に参加した。今後も活動を継続し、地域におけるLGBTQ+支援の拠点となることを目指す。



認知症早期発見・改善を実現するための 包括的な連携モデル事業

協議体 認知症を改善し隊久留米

所在地:久留米市中央町35-1

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人久留米健康くらぶ 企画・運営、広報
- ◆医療法人音成脳神経内科・内科クリニック 認知症専門医療
- ◆社会福祉法人ひびきの杜 高齢者生活支援ハウスふじの郷 介護事業所としての相互連携
- ◆株式会社セイコウカレッジ 認知症・ストレスケア等相談業務

〈問い合わせ先〉

◆一般社団法人久留米健康くらぶ

住所 福岡県久留米市中央町35-1

TEL 090-8299-1848 FAX 0942-34-1862

メール kenkou@117fureai.org



専門スタッフによる個別相談対応

課題・背景・目的

全国的に住民が認知症の早期相談をためらい、発見・改善の遅れや自宅での症状進行につながるケースが多く見られる。これは、医療機関への敷居の高さや認知症へのネガティブなイメージが根強く、本人や家族の理解不足も原因である。本事業では、地域単位での認知症カフェを核に医療・介護・看護との相互連携で、これらの課題を解決し、誰もが安心して暮らせるまち久留米の実現を目指す。

工夫した点

「まちなかものわすれ相談室」では、参加者が気軽に健康やもの忘れについて相談できるよう、医療・介護・看護の専門スタッフが駐在し、個別の相談対応を実施した。また、認知症サポートパンフレットを作成し、住民型認知症カフェ等との相互理解を深めながら、地域住民の認知症への理解を深める周知啓発活動も行った。

主な取組内容

久留米市内の認知症の方や介護家族、その他不安を抱える一般市民を対象に、毎月第2土曜日に「まちなかものわすれ相談室」を開催した。市内住民型認知症カフェと相互連携し、認知症の早期発見や進行改善に取り組んだ。

また、県内認知症カフェの運営者や行政等との情報交換の場として、「認知症カフェ対面交流会」を県内5地区で開催し、認知症カフェの課題討議、今後の展望について意見交換を行った。

事業の成果・今後の展開

「まちなかものわすれ相談室」を全9回開催し、延べ98件の相談を受けることで、認知症の早期発見・進行改善に貢献した。「認知症カフェ対面交流会」には延べ52名が参加し、関係機関の相互連携も促進された。将来的には久留米市と相互連携を進め、相談の継続拡充を目指す。加えて、住民型認知症カフェの校区ごとの開設支援を進め、地域単位の認知症カフェと医療・介護の連携の強化を図る。

主な経費 謝金、人件費、旅費、会場使用料、消耗品・材料購入費など



認知症予防カフェの体操の様子



認知症予防に関する講演



すべての子どもに多様な学び・ 体験の機会を!「子ども国際マーケット」

協議体 Nouji 学園×Scuola dei Bambini協議体

所在地:北九州市小倉北区吉野町12-19

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人Scuola dei Bambini
企画・運営、広報
- ◆ワールドミクニ共同事業体
企画・運営、広報、会場提供
- ◆合同会社カーサ・デ・バンビーニ
企画・運営、広報

〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人Scuola dei Bambini

住所 北九州市小倉北区吉野町12-19

TEL 080-4624-4033



49人の子どもと約40人の出店者&スタッフが一体となって運営

課題・背景・目的

北九州市では、高齢化率37.6%と高齢化が進み、地域コミュニティの希薄化も進行している。外国籍市民も8,000人を超え、多文化共生の基盤づくりも課題となっている。こうした問題は、「相互依存」の視点不足と深く関係しており、人と人が支え合う意識を育む取組が求められている。

さらに、コロナ禍の影響で子どもたちの非認知能力低下が指摘され、その回復・育成が喫緊の課題となっている。

工夫した点

イベントでは、出店者やオペレーティングスタッフを公募・選定し、多様な人々が運営に参加できるよう工夫した。事前集会も実施し、チームビルディングや異文化理解を促進し、子どもたちとスタッフが協力して企画・準備を進めた。

また、広報活動も強化し、地域企業への協賛依頼に加え、小学校へのチラシ配布、オンラインメディア・SNSでの情報発信を実施した。

主な取組内容

北九州市立総合農事センターにおいて、年長児から小学6年生が主体となる国際交流マーケットイベントを開催した。地域企業、外国人スタッフ、若者ボランティアらとチームを組み、子どもたちが企画・運営を担当。出店やワークショップを主体的に行い、マーケットでの経済活動や実社会の仕組みを体験。多文化の交流を通じて非認知能力を育むとともに、参加者同士で支え合う意識を養う機会を提供した。

事業の成果・今後の展開

延べ49名の児童・生徒が出店者として参加し、地域住民2,498名が来場した。子どもたちは企画・運営を通じ責任感や協働力を育み、国際理解と共生意識も高めた。子どもを中心とした世代間・多文化間の交流が生まれ、地域全体に連帯感と共助の意識が広がった。

今後は、福岡県全体へ共生と共創の文化が広がるよう、地域内外の学校・団体と連携し、他地域への展開や継続開催を目指す。

主な経費 講師謝金、人件費、旅費、消耗品・材料購入費、チラシ印刷費など



楽団ブースでは、「世界をめぐる音楽の旅」をテーマに子どもたちと外国人スタッフがステージを構成



本物のキッチンカーと設備を使って、職業体験を実施



能古島の鹿垣再生を通じた 山林の管理・活用計画の策定

協議体 能古島の里山林再生協議体

所在地：福岡市中央区天神2丁目3番10号天神バインクレスト719号
(構成団体と役割)

- ◆特定非営利活動法人NPOふくおか
企画、管理活用計画まとめ、パンフレット作成
- ◆鹿垣を守る会
島民への広報・集客、会計

(問い合わせ先)

◆特定非営利活動法人NPOふくおか

住所 福岡市中央区天神2丁目3番10号天神バインクレスト719号
TEL 090-8623-2048 メール info.npofukuoka@gmail.com
HP・SNS等 <https://www.npofukuoka.org>



能古島内外から30名程集まった勉強会

課題・背景・目的

能古島では、高齢化等で里山林が荒廃し、猪害や景観悪化が深刻化しており、島民の関心も薄く、抜本的な改善が急務である。そこで、歴史遺構「鹿垣」(約2km)の再生を軸に、里山林と遊歩道の整備を行う。本事業では、島民が主体的に関わり、レクリエーションや環境学習、エコツーリズムを組み合わせ、来訪者にも魅力的な里山林の管理・活用計画を策定する。

工夫した点

勉強会では、エコツーリズムについて講師から学んだ後、参加者がターゲット別のグループに分かれ、能古島の里山林や鹿垣を軸に、他の地域資源を活用したエコツアー企画を意見交換。企業向けの1泊2日サステナブル社員研修や、シニアや外国人向けの鹿垣の石積み体験と地元の食材を活かした飲食店等と連携したユニークな企画などが多数提案された。

主な取組内容

能古島の魅力づくりに関心のある島内外の方を対象に、里山林の管理・活用の考え方や事例、エコツーリズムプログラムの作り方を学ぶ勉強会を全2回開催した。この勉強会で得られた知見を活かし、鹿垣沿いの散策路活用による具体的な体験プログラムや持続可能な管理アイデアなどを盛り込み、管理・活用計画のパンフレットを作成した。

事業の成果・今後の展開

勉強会には、小学生から高齢者、大学サークル、外国人など各回30名超の多様な参加者が集まった。地元住民も参加し、里山林保全への理解促進と協力者の発掘に繋がった。策定したパンフレットは、地権者や学校、団体等への説明時に配布し、今後の活動に繋げる。また、鹿垣の現状や魅力を体感するスタディーツアーやボランティアを募っての修復作業も進めていく。

主な経費 講師謝金、旅費、人件費、消耗品・材料購入費、チラシ・パンフレット制作費



意見交換の様子



ターゲット別のツーリズム計画の発表



私達からのギフト ～美しい川を子どもたちへ～

協議体

はやめカップ祭り実行委員会

所在地:大牟田市馬込町1丁目20番地1

〈構成団体と役割〉

- ◆ 駿馬校区まちづくり協議会
企画、広報、運営
- ◆ 駿馬校区公民館連絡協議会、駿馬校区社会福祉協議会、はやめ人情ネットワーク
運営
- ◆ 駿馬校区民生委員・児童委員協議会
イベントで提供する飲食物準備

〈問い合わせ先〉

◆はやめカップ祭り実行委員会

住所 大牟田市馬込町1丁目20番地1

TEL 090-5489-6561

メール y-ueda@thanks-eng.co.jp



諏訪川の水面に映える幻想的なランタンの灯り

課題・背景・目的

大牟田市駿馬校区では「認知症になっても誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり」を進めているが、高齢化率45.4%という現状から、地域の担い手発掘が急務である。そこで、校区のシンボルである諏訪川を舞台に開催される「はやめカップ祭り」において、スカイランタンのイベントを実施し、世代間交流を通じた青少年の健全育成と、地域全体の連帯意識の醸成を図る。

工夫した点

宮原中学校・三池工業高校・有明高専の学生や地元中学OB・OG、老人クラブなど多世代約70名がボランティアとして連携し、世代間交流と青少年育成を図った。さらに、カヌーサポーター会や「はやめにここにこ会」と協力し、諏訪川清掃や河川敷の除草、菜の花の種まきなど環境保全活動にも取り組んだ。

主な経費

消耗品・材料購入費、チラシ・ポスター作成費



多世代のボランティアが協力して行ったランタン製作



諏訪川への願いを記した短冊をランタンに貼り、思いを共有

主な取組内容

はやめカップ祭りに合わせ、LED4色のスカイランタン約200個を諏訪川上空に灯すイベントを実施した。参加者は空中に浮かぶ幻想的な光景や川面に映る光を楽しんだ。終了後は、諏訪川を大切に思う人々の願いや思いを記した短冊を回収したランタンに貼り、希望者に手渡すことで、地域全体で思いを共有し、川への関心と理解を深める機会となった。

事業の成果・今後の展開

地域のこどもから高齢者まで約800人が参加し、世代間交流と地域への愛着を育んだ。若者世代も主体的にイベントに関わり、地域活動や環境保全の意識向上にもつながった。今後も、本事業での体制を活かし、次世代が企画・運営を担う地域行事として定着を進める。また、諏訪川を核とした環境教育の発展や地域交流の拡大、事業の自立化にも取り組んでいく。



協議体 地域猫ボランティアグループ

所在地：春日市

〈構成団体と役割〉

- ◆ネコお助け隊
企画・運営、TNR活動の実施
- ◆ニャン助隊
企画・運営、TNR活動の実施
- ◆株式会社塚田工業
広報、譲渡会の会場提供

〈問い合わせ先〉

◆地域猫ボランティアグループ

TEL 090-5389-3256

メール nyansuketai.222@gmail.com

HP・SNS等 @nyansuketai(Instagram)

課題・背景・目的

春日市、那珂川市を中心とする福岡県内の一部地域では、飼い主のいない猫の過剰繁殖が問題となっている。これにより地域住民の生活環境が悪化し、地域美化への意識低下を招いている現状である。これらの課題に対し、本事業では、飼い主のいない猫を捕獲し、不妊去勢手術を行った上で、元のいた場所に戻す地域猫活動を実施する。

工夫した点

譲渡会への集客を図るため、キッチンカー出店や豚汁提供、ハンドメイド作家を招いたワークショップなど、参加者が楽しめる工夫を凝らした。また、活動の継続に必要な財源を確保するため、譲渡会でのオリジナルグッズ販売や地域の祭りへの積極的な出店も行った。

主な経費 旅費、消耗品・材料購入費、医療費



地域猫活動



譲渡会での里親とのマッチング

主な取組内容

地域猫活動を推進するとともに、給餌者への適切な餌やりの指導、猫用トイレの設置促進、新たな流入猫に関する情報交換などを働きかけ、地域における猫の管理体制構築を図った。

また、保護猫と里親との出会いを支援するため、定期的に企業のオフィスを全面的に開放して譲渡会を開催し、地域猫と里親のマッチングおよび保護猫に関する相談対応を行った。

事業の成果・今後の展開

譲渡会を月1回開催し、96匹の保護猫を里親とマッチングすることができた。また、地域猫活動として127匹の不妊去勢手術を実施した。これらの取組により、春日市、那珂川市の飼い主のいない猫が減少し、糞尿被害やごみ荒らしなどが軽減され、地域内の環境保全、美化に貢献した。今後は、クラウドファンディングなどを活用して活動内容や成果を広く発信することで、支援者からの資金調達を行い、活動を継続していく。



オリジナルグッズ販売



EMIARE Project 青少年交流&環境保全活動

協議体 むなかた人の和プロジェクト

所在地:宗像市三倉17-1

(構成団体と役割)

- ◆宗像フェスCSR推進実行委員会
企画、運営
- ◆MVC(むなかたボランティアカレッジ)
企画、運営
- ◆帝人フロンティア株式会社
絵本用紙製作

(問い合わせ先)

◆宗像フェスCSR推進実行委員会

住所 福津市西福岡4-6-15

TEL 0940-22-8308 FAX 0940-36-9013

メール office@munafes.jp HP・SNS等 <https://www.muna-csr.com/>



宗像フェス会場で日韓の学生でエコステーション運営

課題・背景・目的

世界遺産のある宗像、福津の海岸では、近年大量の漂着ごみが押し寄せている。また、プラスチックごみはさらに小さなマイクロプラスチックとなり、魚がそれを食べることで人体への影響も懸念されている。そこで、宗像フェスのCSR活動の一環として、日韓の学生が海岸の漂着ごみを回収・リサイクルする活動を展開。これにより、不法投棄問題や海岸の環境悪化の現状を広く伝えていく。

工夫した点

日韓の学生がともに海岸清掃に取り組むことで、国際交流を深めるとともに、漂着ごみ問題は国境を越えて取り組むべき課題であることを伝えた。また、海岸清掃で収集したペットボトルを原料とするリサイクルペーパーを使用し、海の環境問題をテーマとした絵本を昨年から引き続き製作。完成した絵本は、宗像フェスの会場で販売したほか、図書館に寄贈した。

主な取組内容

釜山外国語大学の学生と募集した日本の学生で、海岸清掃活動を実施した。また、宗像フェスの会場ではエコステーションを設置し、地域の学生と協力して大量に排出されるプラスチック容器の分別・洗浄を行い、資源化を進めた。一連の活動の様子は高校生が動画撮影し、日韓の学生によるZoomでの協議を経て、YouTubeで発信した。

事業の成果・今後の展開

海岸清掃には日韓の学生と教員計47名が参加し、漂着ごみ約80キロを回収した。また、宗像フェスの環境活動PRブースには130名の学生ボランティアが参加。次世代を担う若者に環境問題への意識を醸成し、世代や国境を越えて海の環境保全に繋がった。今後も、宗像の自然環境を守るため、持続可能な財源を確保しつつ、企業や学生が主体となる取組へと広げていく。

主な経費 絵本製作費、バス借上げ料、消耗品・材料購入費、チラシ・ポスター作成費



日韓の学生で環境をテーマにZOOM会議を開催



日韓の学生で奈多海岸を清掃



洞海湾の近代化遺産が創る 景観の活用と継承

協議体 若松南海岸の魅力を発信する会

所在地：北九州市若松区本町1-10-17 303

〈構成団体と役割〉

◆NPO法人北九州建物遺産トラスト

企画・運営、広報

◆若松再発見の会

街歩きツアーガイド、クルージング解説

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人北九州建物遺産トラスト

メール isanntrast@outlook.jp



洞海湾クルージング

課題・背景・目的

北九州市の若松南海岸には、石炭産業と鉄鋼業の歴史を伝える建物や土木遺産が多数残存している。加えて、国の重要文化財である若戸大橋や近代の高層マンションなども共存しており、この独特な景観を残す港湾都市は国内でも唯一と言われている。しかしながら、地域住民には、観光資源としての認識が薄く、日常の風景として見過ごされがちで、その魅力や価値が十分に浸透していない。

工夫した点

クルージングではボランティアガイドによる案内のもと、普段見ることのできない海上からの視点で、若松南海岸、戸畑沿岸、明治日本の産業革命遺産などを巡り、洞海湾の近代化遺産について解説を行った。また、文化財である旧古河鉱業若松ビルや上野ビルで軽食会やジャズライブも開催し、食や音楽を通じて非日常空間を実感できるようにした。

主な取組内容

主に地元住民を対象に、ボランティアガイド付きの日本遺産を中心とした街歩きや洞海湾のクルージングなど地域の魅力を実際に体験できる複合的なイベントを3日間実施した。併せて、歴史的遺産と街づくりに関する基調講演や若松南海岸の風景、建物、土木遺産に関する展示会、若松食材を使った懇親会なども開催した。

事業の成果・今後の展開

事業全体を通じて、延べ412名の参加があり、多くの地域住民が地域の景観について関心を深めるきっかけを提供することができた。参加者からは、「初めて海から若松、戸畑の海岸景観を眺め、その素晴らしさを実感した」などの声が寄せられた。今後は、地域の大学や企業、住民との連携を深め、地域一体となり若松南海岸の魅力を発信していく。

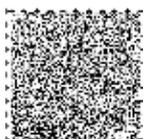
主な経費 講師謝金、人件費、旅費、渡船借上げ料、チラシ作成費等



講演会風景



JAZZとワインののたべでいろいろな世代の人が楽しむ



テーマ型

災害支援枠

寄附者 九州朝日放送株式会社

困難な状況にあるこどもの支援枠

寄附者 イオン九州株式会社
大坪GSI株式会社

健康増進枠

寄附者 明治安田生命保険相互会社



福岡県60市町村協働による発災時の 情報調査体制づくり

協議体 防災グ

所在地:朝倉市杷木池田687-3
(構成団体と役割)

- ◆災害支援ふくおか広域ネットワーク 統括、各団体との調整
- ◆一般社団法人螢火 調査設計
- ◆一般社団法人Camp NPOとの連携、災害教育の知見提供
- ◆一般社団法人アースプロジェクト福岡 地域調査、情報発信
- ◆くるめ災害支援ネット ハツシュ# 調査、行政・社協との連携調整
- ◆北九州市立大学地域共生教育センター 災害調査の知見提供
- ◆株式会社三好不動産 広報支援

(問い合わせ先)

◆災害支援ふくおか広域ネットワーク

住所 福岡市中央区天神2丁目14-2福岡証券ビル8階(三好不動産内)
TEL 092-716-7766 メール info@2021f.net
HP・SNS等 <https://saigaishienfnet.wordpress.com>



三者連携調査の様子

課題・背景・目的

近年、福岡県では豪雨等の大規模災害が多発し、被害は局所化・広域化・多重化している。一方、発災直後の被災情報収集は市町村ごとに手法や精度に差があり、迅速かつ正確な情報共有が課題となっている。広域災害時に地域住民、NPO、企業、行政が連携し、初動段階から有効な支援につなげる情報調査体制の構築を目的とする。

工夫した点

令和7年8月、福岡県内22市町村で発生した災害において、県域での災害支援を実施する中で、本事業の情報調査を8市町で実践した。計画段階の検討にとどまらず、実際の災害を通じて調査を行い、事業内容を実践と結びつけることができたことにより、当初4年計画として想定していた内容を3年で実施可能な事業構成へと整理することができた。

主な取組内容

NPO、社協、行政職員等を対象に、発災時の情報調査体制づくりに関する勉強会を開催した。過去災害事例や令和7年の災害対応をもとに、調査票・報告書の整理、関係機関への聞き取りを実施し、課題を整理した。さらに「初動」「支援期」など災害フェーズに応じた情報分類を行い、実効性のある情報調査体制の検討を行った。

事業の成果・今後の展開

本事業で得られた成果を基に、福岡県と連携し、県域における被災調査の基準及び実施体制の構築を進めていく。あわせて60市町村との協議を通じ、地域特性に応じた調査内容を整理し、実効性の高い調査体系を構築する。今後、福岡県内で発災した際には、迅速かつ正確な情報収集と共有を可能とする体制の確立を目指す。

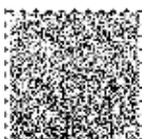
主な経費 謝金、人件費、旅費、消耗品・材料購入費



調査ミーティング



現場調査



避難をあきらめない 自助・共助・近助活性化事業

協議体

視覚障がい者防災研究会

所在地:福岡市博多区板付4丁目11-1-112
(構成団体と役割)

- ◆NPO法人ハッピーライド
統括
- ◆ノー・リミット
会場調整、広報
- ◆中間市視覚障害者の会 つばさの会
会場調整、広報

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人ハッピーライド

住所 福岡市博多区板付4丁目11-1-112
TEL 080-7983-3388 FAX 092-201-8435
メール 39@happyride.info HP・SNS等 <https://happyride.info>



全盲の防災士による講演

課題・背景・目的

視覚障がい者が災害時に避難する際には、情報取得、避難ルートの確保、支援者不足など多くの課題に直面し、避難を諦めざるをえない場合がある。特に、性別・年齢・生活スタイルに応じた避難ニーズに対応する情報が不足しており、また当事者団体や支援団体等に所属していない視覚障がい者への情報提供が困難という現状もある。これらの課題を解決し、視覚障がい者が、災害時に適切な避難をすることができる環境を整備することを目指す。

工夫した点

全盲の防災士による体験談を通じて、視覚障がい者が災害をより身近に感じ、防災意識の向上につなげた。また知見を活かし、視覚障がい者の多様なニーズに対応したハンドブックを作成することで自分にあった避難を考えることが可能になった。さらに、実際の避難所ワークショップでは、より実践的な知識と技術を習得でき、当事者・支援者の行動変容につなげた。

主な経費

謝金、旅費、人件費、冊子印刷委託料など

主な取組内容

全盲の防災士と連携し、障がい者が直面する困難を地域課題として捉える視点を、行政や地域住民など多様な担い手に同時に共有した。障がい者疑似体験を通じて課題解決を考える場を設けることで、共感型支援への理解を促した。あわせて、視覚障がい者が自分に合った防災を考えられるハンドブックを作成した。

事業の成果・今後の展開

視覚障がい者向けの防災ハンドブックを400部発行、県内15か所以上に配布し、視覚障がい者が災害時に適切な避難行動を取れるようにするための情報提供と支援体制の強化に貢献した。また、避難対策のワークショップには合計83人が参加し、視覚障がい者が直面する困難を地域の課題として捉える事前防災の基礎を築くことが出来た。今後は、障がい者の避難を「非常時の問題」ではなく「日常の課題」へと引き上げる活動を通じて、障がい者とその家族が、「避難を諦めなくてもよい」と感じられる環境づくりに取り組む。



視覚障がい者が直面する困難を体験



障がい者疑似体験を終えての意見交換会



えほん楽団 みんなのこどもコンサート

協議体 えほん楽団 みんなのこどもコンサート協議体

所在地:福岡市博多区光丘町

〈構成団体と役割〉

- ◆NPO法人えほん楽団 企画、奏者手配、演奏
- ◆NPO法人colour こども食堂会場提供、広報
- ◆北九州市立折尾西市民センター コンサート会場提供、広報
- ◆医療法人城戸医院 児童発達支援センターぶどうの樹未来塾 コンサート会場提供、広報
- ◆社会福祉法人福岡市保育協会 やまびこ保育園 コンサート会場提供
- ◆NPO法人がんのママをささえ隊ネットワークETERNALBRIDGE コンサート会場提供、広報

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人えほん楽団

住所 福岡市博多区光丘町 TEL 090-3012-4581

メール ehongakudan@gmail.com

HP・SNS等 <https://ehongakudan.com>



みんなのこどもコンサート こと 箏楽器体験

課題・背景・目的

病気や障がい、家庭の経済状況を理由に芸術文化の体験機会に恵まれないこどもたちが増えており、体験格差の解消が必要である。優れた芸術文化の体験は、こどもの豊かな感性や想像力、コミュニケーション能力等の成長に大きな効果が期待される。本事業では、誰もが楽しめる垣根のないコンサートの開催により、豊かな音楽と文化を提供する。

工夫した点

絵本と音楽、SDGs、そして災害伝承等の多様なジャンルを融合させることで、こどもたちは単に音楽を聴くだけでなく、様々な感覚を刺激された。また、多種多様な困難を抱えるこどもたちも気軽に参加しやすいように、招待券を各団体に手渡しで配布した。文化庁邦楽大使による本格的な演奏に加え、こどもたちが実際に箏に触れる貴重な楽器体験も提供した。

主な経費 演者謝金、人件費、旅費、楽曲制作委託費、楽器運搬費、チラシ作成費等

主な取組内容

こども食堂や児童発達支援センター、保育園等、県内7か所において、絵本と音楽を融合したコンサートやSDGs・環境問題を伝えるコンサート等を開催した。絵本の読み聞かせやプロの奏者による楽器の演奏などを通じ、こどもたちに音楽体験に加え、災害伝承や環境教育の機会を提供した。こども食堂コンサートでは、病気や貧困などさまざまな要因で困難な状況にあるこどもたちを対象に年齢や障がいの垣根を超えて食と音楽を楽しむ機会を提供した。

事業の成果・今後の展開

計7回のコンサートの総参加者数は500人にもものぼり、幼児から高齢者、障がいのある方など幅広い層に楽しんでもらえる垣根のないコンサートとなった。安心して参加できる絵本コンサートを体感することで、参加者のホールコンサートへの関心を高めた。今後も、コンサートをさまざまな地域で開催し、こどもたちの音楽への愛を育む芸術文化活動の継続を目指していく。



SDGsコンサート (北九州市立折尾西市民センター)



がんのママをささえ隊・クリスマスコンサート



こどもたちが一歩をふみだす 交流体験事業

協議体

グレープエンジェル

所在地:福岡市長住2丁目4-29

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人musicGate 全体統括・運営
- ◆学校法人福岡女学院中学校・高等学校 会場提供
- ◆里山復帰 企画・運営
- ◆cocohana心のアトリエ 運営
- ◆駄菓子 ごきげんや 企画・運営
- ◆一般社団法人SARAE 企画

〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人musicGate

住所 福岡市長住2丁目4-29

TEL 090-6429-9543

メール musicgate222@gmail.com



楽器体験ワークショップ

課題・背景・目的

福岡県における不登校児童数は増加している。不登校のこどもたちは、人との関わりや体験の機会が少なく、コミュニケーション能力の低下や孤立感、社会性の遅れが課題となっている。そこで、不登校や障がいの有無にかかわらず、こどもが分け隔てなく共に楽しめるレクリエーションを開催することで、不登校のこどもたちが交流や多様な体験を通して一歩ふみ出すことができる居場所づくりを行う。

工夫した点

こども一人ひとりの多様な興味関心に対応できるよう、「お菓子作り」「自然遊び」「楽器体験」など、多岐にわたるテーマ設定でイベントを企画した。1回だけの参加も可能とし、こどもたちがイベントへ参加する際の障壁を低減した。また、こどもたちの活動中には保護者同士の交流や専門家による相談の場を設け、子育ての悩みを共有し解決を目指すなど、保護者へのフォローも行った。

主な取組内容

楽器体験やお菓子作り、昔遊び・山遊び体験といった全3回の体験ワークショップを通じて、様々な年齢や地域のこどもたちが集まる交流の場を提供した。不登校やひきこもり、障がいを抱えるこどもたちにとっては他者と共に多彩なイベントに参加することにより、コミュニケーション能力、協調性などを培い、自己肯定感を向上させることができた。

事業の成果・今後の展開

体験ワークショップには30名が参加し、こどもたちは不登校、引きこもり、障がい等お互いの立場を理解し、尊重する有意義な機会となった。また、不登校、障がいのあるこどもたちは自信を持つきっかけとなった。今後も地域社会との連携を強化し、不登校のこどもたちとその家族を地域全体で理解し支える体制へと繋げることを目指していく。

主な経費

謝金、旅費、消耗品・材料費、人件費、施設利用料など



お菓子作り



山遊び体験



農福連携お芋プロジェクト

協議体 子ども達の居場所づくりと自律支援協議会

所在地：糟屋郡新宮町夜臼5丁目

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人Kauhora
企画・運営、活動場所の提供
- ◆ 特定非営利活動法人ぎんともも 行政との連携
- ◆ 学校法人立花学園 立花高等学校 人員提供
- ◆ 美和台校区社会福祉協議会 広報、人員・設備提供

〈問い合わせ先〉

- ◆ 特定非営利活動法人Kauhora
TEL 090-4349-4307
メール kauhora.inf@gmail.com
HP・SNS等 <https://www.kauhora.com>

課題・背景・目的

近年、学業や対人関係のストレス、家庭環境、心や身体の健康問題など、さまざまな理由から学校を長期欠席するこどもたちが増加している。このような状況下のこどもたちは、自己否定感を感じやすく、他者とのつながりも希薄になる傾向にある。また、地域社会においては、耕作放棄や農業の担い手不足といった問題が深刻化している。

工夫した点

フリースクールや高等学校との連携により、不登校のこどもたちと高校生とが接することで互いにコミュニケーション能力を養うとともに、社会福祉協議会との連携により世代を超えて交流できる場を構築した。また、農作業のほか、プロのダンスインストラクターによるマンツーマンの個別レッスンを導入。こどもたちの身体活動によるストレス軽減、気分転換、自己表現を促すとともに、講師自身のひきこもり経験を活かしたこどもたちの心に寄り添った指導を行った。

主な経費 人件費、謝金、旅費、消耗品・材料購入費など



さつまいも作付けの様子

主な取組内容

立花高等学校の生徒や福岡市内のフリースクールに通う、不登校やひきこもりの経験により生きづらさを感じているこどもたちとその保護者などを対象に、耕作放棄地を活用し、さつまいも苗の植え付け、草刈り、収穫、加工品製造まで行う農業体験を実施。畑での他者とのコミュニケーション、世代間交流を促し、自己の居場所と役割を見つけるきっかけを提供した。

事業の成果・今後の展開

農業体験には、延べ70人の参加があり、こどもたちの心の安定と自立へ向けたステップアップを確立することができた。また、ダンスレッスンには延べ6人のこどもが参加し、心身のリフレッシュや達成感・自信の獲得に繋がった。今後は、本事業をきっかけに、地域全体がこどもたちを見守り育む風土を定着させる。農作業を軸とした活動を持続的に発展させるとともに、こどもたちの活動機会の拡充や地域コミュニティの活性化を目指す。



さつまいもジャム



料理店での提供



非行や問題行動を起こす子ども達へ 寄り添い支援

協議体 田川市地域学校協働サポーター協議体

所在地: 田川市大字弓削田
(構成団体と役割)

- ◆ NPO法人K'sグループジャパン
学校現場への人材派遣
- ◆ 田川市教育委員会
学校との連絡調整

〈問い合わせ先〉

- ◆ NPO法人K'sグループジャパン
TEL 080-9245-2873



生徒と対話する様子

課題・背景・目的

近年、田川市では中学校統合による環境変化から生徒の問題行動が顕在化し、不登校生徒も増加している。そこで、地域のNPOと教育委員会が協働し、問題行動を起こす生徒へのフォローアップと情報共有を密に行いながら、生徒が安心して過ごせる学校づくりを実施する。

工夫した点

問題行動を起こす生徒との個別相談の際には、個々の生徒の心情に寄り添い、支援員自身の体験談や悩みへのヒアリング、具体的なアドバイスを通じて、時間をかけて更生を促した。その場限りでの解決ではなく、生徒の将来につながる指導を心掛けることにより、田川市の青少年の健全育成を図った。

主な経費 人件費、消耗品・材料購入費、旅費



校内の巡視



教師との情報共有



居場所つくる

協議体 つくる

所在地: 田川市猪国2559番地

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人みんなのPalette
保護者、地域の学校、協働団体間の調整
- ◆ 特定非営利活動法人アーツトンネル
企画
- ◆ 一般社団法人 Local Education
運営

〈問い合わせ先〉

- ◆ 特定非営利活動法人みんなのPalette

住所 田川市猪国2559番地

TEL 090-9473-7166

メール urayamasaisei@gmail.com



裏山での自然体験プログラム

課題・背景・目的

田川市の不登校児童生徒数は市全体の約1割にもものぼる。また、不登校や貧困などが原因で、こどもたちが安心して過ごせる場所や多様な学びの機会を得られていない現状にある。そこで、創造的・体験的な活動を通して、こどもたちの自己肯定感や自己表現力の向上を図るとともに、地域のクリエイター・アーティスト等の多様な人たちとの関わりから、自己人格を醸成する機会を提供する。

工夫した点

廃校施設「いいかねPalette」を拠点とすることで、最新鋭の音楽・ゲーム・アートの設備を活用した。生徒の興味を最大限に尊重し、授業内容も生徒との話し合いで決定するなど、こどもが主体的に活動を企画・実施する仕組みづくりを実現した。また、裏山や地域資源を活かした活動や地元クリエイターとの連携強化による支援の専門性向上など、地域とのつながりを形成することも心掛け、地域振興にも寄与した。

主な取組内容

田川市の廃校利活用施設「いいかねPalette」で週1回フリースクールを開設し、不登校のこどもたちに安心・安全な居場所を提供した。また、アート、音楽による創造的ワークショップや裏山での自然体験プログラムなどを通じて、こどもたちの情緒的安定、自己有用感や表現力の向上を図り、社会性を育む包括的支援を実施した。

事業の成果・今後の展開

フリースクール、ワークショップは計4回開催し、延べ40名が参加。参加した生徒や保護者からは、「おかげで気持ちがりポジティブになり、元の学校に通えるようになった」との声が寄せられ、こどもたちの登校意欲や社会性向上、保護者の心理的負担の軽減に貢献した。今後は、高齢者と生徒の交流機会創出など、多様な世代との連携で活動の広がりを目指していく。

主な経費 謝金、人件費、消耗品・材料購入費、チラシ作成委託料など



校外アートワークショップ



参加者のこどもたち



こども食堂運営事業と 子供たちに第4の居場所を確保する事業

協議体 100人カレー推進協議会

所在地:福岡市中央区大名2-1-43 東洋マンション大名406号
(構成団体と役割)

- ◆NPO法人まなびや木の木
企画・運営、広報
- ◆社会福祉法人福岡市社会福祉協議会中央区社協事務所
企画、ボランティア支援
- ◆株式会社大宮社中
食料品支援

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人まなびや木の木

住所 福岡市中央区大名2-1-43 東洋マンション大名406号

TEL 090-2857-6079

メール info01@kinoki.jp HP・SNS等 <https://www.kinoki.jp>



100人カレー警固

課題・背景・目的

地域のつながりが希薄になる中、こどもが安心して過ごせる居場所がなく、共働き世帯の増加等もあり、孤食・孤立するケースが増加している。福岡市でもこどもたちが安心して食事をし、自由な時間を過ごすことができる自宅や学校以外の居場所が地域内に必要とされている。

工夫した点

手作りカレーは具材をペースト状にし、好き嫌いのあるこどもでも食べやすいように調理した。また、県内の大学のボランティアサークルと協働することで、ボランティアに携わりたい大学生の活躍の場を創出し、当活動のマンパワー不足の課題も解決できた。さらに、利用の年齢制限を設けないことで、こどもたちだけでなくその保護者や地域の高齢者など幅広い年代が集まり、多世代の交流の場を提供した。

主な取組内容

家庭の共働きや貧困により孤立・孤食状態にあるこどもたちを対象に、福岡市内の公民館(弥永・警固)2か所です毎月1回、元フレンチシェフが手作りカレーを振る舞う食支援活動を行った。また、同日に読み聞かせ会やアメリカ人経験者が指導する囲碁学習会等も開催。こどもたちに楽しいコンテンツと安心できる居場所を提供し、健やかな成長を支えた。

事業の成果・今後の展開

こども食堂を「100人カレー弥永」として7回、「100人カレー警固」として9回、計16回開催した。参加者はこどもから高齢者までを合わせ、弥永で493人、警固で515人と計1,000人以上にも達した。参加者からは、「カレーが美味しかった」との声が寄せられた。今後も企業、社会福祉協議会、ボランティア学生等が一体となり密な連携を取りながら、孤立・孤食のこどもたちの把握、長期的な支援、そして見守りを継続していく。

主な経費 人件費、旅費



100人カレー弥永



読み聞かせ会の様子



子どもたちの多様な学びを支える 居場所情報発信事業

協議体 ふくおかフリースクールフレンドシップ協議会

所在地:福岡市東区箱崎3-18-8
(構成団体と役割)

- ◆特定非営利活動法人うめづメンタルケアセンター
福岡地区の取材
- ◆医療法人静光園フリースクールソフィア 筑後地区の取材
- ◆特定非営利活動法人未来学舎 デザイン編集、筑後地区の取材
- ◆特定非営利活動法人フリースクール風の里 筑豊・北九州地区の取材
- ◆特定非営利活動法人箱崎自由学舎ESPERANZA
筑豊・北九州地区の取材

(問い合わせ先)

◆特定非営利活動法人箱崎自由学舎ESPERANZA

住所 福岡市東区箱崎3-18-8

TEL 092-643-8615 FAX 092-643-8625

メール info@esperanzahp.jp

HP・SNS等 <https://www.facebook.com/ffreeschool/>



こどもたちの多様な学びを支える居場所情報誌

課題・背景・目的

福岡県では、不登校の児童生徒とその保護者の約4割が「学校内外問わずどこにも相談していない」という実態が明らかになっている。特に、フリースクール等の学校以外の居場所情報は行政で一元的に管理されておらず、支援情報の不足が深刻である。本事業は、この情報不足を解消し、不登校のこどもたちが孤立せず、安心して学べる居場所を見つけられるよう、情報提供を通じて支援する。

工夫した点

各フリースクールのスタッフ情報まで詳細に掲載することで、情報誌の利用者はどのようなスタッフが在籍しているかを知ることができ、安心して通学するまでのハードルを下げた。デザインにもこだわり、こどもたちが行きたいと感じる魅力的な誌面作りを心掛けた。さらに、電話での掲載依頼だけでなく、各団体への直接訪問を重ねることで、得られた現場のリアルな情報を誌面に反映させ、より実態に即した内容を提供した。

主な経費 人件費、旅費、通信運搬費、印刷製本費

主な取組内容

不登校の児童生徒とその保護者を対象に、福岡県内の学校以外の居場所情報をまとめた情報誌の作成・配布を行った。各施設への電話取材を通じ、情報誌には、フリースクール等の料金、開校曜日など、利用者が必要とする詳細な情報をリスト化した。また、県・市町村教育委員会などの行政機関とも連携し、相互に情報共有を行うことで、より包括的な支援体制を構築した。これにより、不登校で悩む方々に多岐にわたる選択肢を提示し、安心感を提供した。

事業の成果・今後の展開

情報誌4,000部を発行し、各教育委員会へ依頼の上、県内の小中学校へ設置した。また3,000部を不登校の児童生徒とその保護者の世帯に届け、利用者の孤立感や不安感の軽減を図った。今後も活動を継続し、不登校の児童生徒とその保護者が、多様な選択肢を選べる環境を確立する。また、フリースクール合同相談会の開催などを通じて、不登校に関する支援を継続し、さらなる安心感の醸成に努めていく。



フリースクール関係者による編集会議の会場



情報誌の編集作業の様子



医療とアートの協働で 演劇ワークショップを開発・実施する事業

協議体 演じて考える協議体

所在地: 筑紫野市紫1丁目

(構成団体と役割)

- ◆ NPO法人えんげき広場cue 企画・運営、広報、会計
- ◆ 株式会社WARE プログラム作成、メインファシリテーター
- ◆ 九州大学大学院医学研究院地域医療教育ユニット 医療者の参加募集、参加者の心理ケア

〈問い合わせ先〉

◆ NPO法人えんげき広場cue

住所 筑紫野市紫1丁目

TEL 090-1193-2315 メール enzitekangaeru25@gmail.com

HP・SNS等 <https://drama-cue.art>

<https://wareware2025.studio.site>



健康問題に関するエピソードを出し合うシーン

課題・背景・目的

高齢化が急速に進む福岡県において、地域住民が主体的に健康維持・増進に取り組むことは喫緊の課題である。しかし、現状では医療者と住民のコミュニケーションが十分でなく、健康問題に対する積極的な関わりも限られている。そこで、演劇経験のない、中学生から高齢者まで多様な年代の地域住民と医療者が共に劇を作り上げるプロセスを通じて、従来の対話形式では表出しにくい本音や潜在的なニーズを引き出し、健康問題に対する新たな気づきや相互理解を促す。

工夫した点

演劇ワークショップでは、参加者が抱える健康問題を題材とした劇を演じることによって、他者の多様な健康問題への理解を楽しみながら深めることができた。また、創造的な対話を通じて、医療者と地域住民との相互理解や共感が進み、地域住民の健康リテラシー向上、医療者との信頼関係構築を促し、地域社会全体の健康増進に繋がった。

主な取組内容

公募した地域住民や医療者を対象に、県内のコミュニティセンター、大学で演劇ワークショップ(全2回)を実施。参加者が抱える健康問題に関するエピソードを出し合い、それを基に即興劇を創作・発表した。演劇人がファシリテーターとなり、参加者全員で劇を作り上げた。また、今後の演劇ワークショップの継続開催に向け、ファシリテーターの育成講座(全1回)も実施した。

事業の成果・今後の展開

ワークショップは、地域の大学生を含む延べ24名が参加。また計9名がファシリテーター育成講座を受講し、次世代のファシリテーター育成に貢献した。演じることを通じて、地域住民と医療者が健康問題について対話し、新たな気づきを得ることができた。今後は、ワークショップを継続開催することで、健康問題を自分事として捉える機運を地域において育んでいく。

主な経費 人件費、謝金、旅費、会場使用料、チラシ印刷費など



即興劇の発表



集合写真



SeasideRunによる 人と海の健康増進プロジェクト

協議体 SeasideRun実行委員会

所在地:宗像市赤間3-5-1-204

〈構成団体と役割〉

- ◆認定NPO法人改革プロジェクト
企画運営
- ◆一般社団法人宗像観光協会
広報・プロモーション

〈問い合わせ先〉

◆認定NPO法人改革プロジェクト

住所 宗像市鐘崎421-4

TEL 090-2398-7390

メール kaikakuprj@gmail.com



海辺を走る様子

課題・背景・目的

宗像海岸は宗像市における重要な観光資源の一つであるが、近年大量の漂着ごみが押し寄せている。そこで宗像の観光協会とNPOが協働し、宗像海岸をランニングしながらゴミ拾い活動を行い、環境保全をしつつ参加者自身のウェルビーイングを向上することができる「SeasideRun」を実施した。

工夫した点

ランニングでは運動習慣、ビーチクリーンでは地域環境保全を通じた社会貢献意識を育むとともに、宗像の豊かな自然環境を守る活動に参加者が主体的に関わることができる機会を提供した。また、活動を通じて、幅広い世代の交流による新たなつながりや居場所の創出を促した。参加者が「運動」「社会貢献」「交流」という一石三鳥の体験を通じ、生きがいや達成感を得られる場づくりを行った。

主な取組内容

本事業は、毎月2回、海岸ランニングと海辺の漂着ゴミ拾いをセットで実施するイベントを開催。参加者は、ランニングによる心身の健康増進と、ビーチクリーンによる海洋環境保全の習慣化を通じ、人と海の健康を同時に促進することに取り組んだ。さらに、福岡発のワンヘルス活動として他地域にも活動を広く普及させることを目指した。

事業の成果・今後の展開

活動全体を通じて、参加者は120名、ビーチクリーンによる漂着ごみの収集量は200キロを達成した。参加者からは、「SeasideRunは余裕のない私の心を癒してくれる」などの声が寄せられた。今後は、宗像の企業と協働してさらに広範な層へのアプローチを深め、「SeasideRun」の認知度を向上させ、ランニングと社会貢献を融合させた先進的な取組への関心度を高めていく。

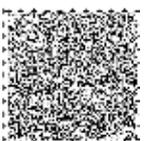
主な経費 旅費、消耗品・材料購入費、人件費、パンフレット・WEB ページ製作費



親子での参加の様子



ビーチクリーンの様子



協議体 FUKUOKA コンファレンス実行委員会

所在地:福岡市博多区築港本町13-6 ベイサイドプレイス博多C棟3F
(構成団体と役割)

- ◆公益社団法人日本青年会議所九州地区福岡ブロック協議会
企画、運営
- ◆一般社団法人大川スタンドバイツリー
企画、運営、協賛

〈問い合わせ先〉

◆公益社団法人日本青年会議所九州地区福岡ブロック協議会

住所 福岡市博多区築港本町13-6 ベイサイドプレイス博多C棟3F
TEL 092-263-6333 FAX 092-263-6334
HP・SNS等 <https://www.jaycee.or.jp/kyushu/fukuoka>



ワンヘルスをテーマとしたステージイベントや講演

課題・背景・目的

「ワンヘルス」は、人間の健康、動物の健康、そして環境の健全性を一つの健康と捉え、一体として守っていくという考え方である。しかし、言葉は知られているものの、その内容や大切さが十分に理解されていない現状にある。この課題に対し、より多くの県民にワンヘルスへの関心と理解を深めてもらうためのイベントを実施する。

工夫した点

有名人ゲストのトークショーやアイドルによるライブなど、多様なコンテンツを組み合わせることで、幅広い層の関心を惹きつけ、ワンヘルスの理念を分かりやすく伝えることができた。また、スタンプラリー抽選会や屋台の出店などのコンテンツも盛り込み、家族層や若い世代の参加者が楽しみながらワンヘルスについて学ぶ機会を提供した。

主な経費 謝金、ステージ使用料



会場内のワンヘルスブースの様子

主な取組内容

「FUKUOKA コンファレンス2025」として、「ワンヘルス」の理念を県民に広く伝えるステージイベントを2日間にわたって開催した。県内6校の高校生によるワンヘルスの事例発表、ワンヘルスマスターの講演、有名人ゲストのトークショー、アイドルによるライブなど、多彩な内容を展開し、ワンヘルスの普及啓発活動を行った。

事業の成果・今後の展開

イベントには延べ約6,000名が参加。また、家族連れの参加者を中心にアンケートを実施したところ、300人からの回答を得た。調査の結果、「ワンヘルスの内容の理解が深まった」と回答した方の割合は75%に達し、イベントを通じて多くの参加者にワンヘルスの重要性を理解してもらうことができた。今後も、県内各地で同様のイベントを実施し、ワンヘルスの理念を広く普及させていくことを目指していく。



運営スタッフの集合写真





お問い合わせ・アクセス

福岡県

住 所：〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7 県庁舎1F

連絡先：☎ 092-643-3938 📠 092-643-3848

✉ kyodo@pref.fukuoka.lg.jp

アクセス：JR「吉塚」駅より徒歩約8分／西鉄バス「県庁前」バス停より徒歩約1分

福岡市営地下鉄「馬出九大病院前」より徒歩約5分

コラボステーション福岡HP <https://www.csf.pref.fukuoka.lg.jp/>



コラボステーション福岡

※この冊子はイオン九州株式会社、株式会社ダイエー、大坪G S I 株式会社、明治安田生命保険相互会社、株式会社セブン - イレブン・ジャパンから福岡県共助社会づくり基金への寄附金を活用して作成しています。



福岡県行政資料	
分類記号 JA	行政コード 5200116
登録年度 07	登録番号 0005